

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公

公表:令和6年1月 20日

業所名 こぱんはうすさくら 札幌元町教室

保護者等数(児童数) 15(17)

回収数 13

割合 86.6

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	13					連絡帳だけでは活動の様子が見えないこともあるので、保護者会などの時に見学できるような機会を設けたい。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	13					
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	12			1		連絡帳だけでは活動の様子が見えないこともあるので、保護者会などの時に見学できるような機会を設けたい。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	13					
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	13					
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	2	2	1	8		保護者の希望があるかもわからないので、今後の意見を踏まえて検討したい。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	13					
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	13					
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	13					
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	10				3	保護者会は9月に行っているが、それ以降に利用いただいた方には周知できてない。今後の課題。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	19				3	ラインを利用している。できるだけ迅速に対応したいと思うが、タイミングによっては電話の方が早いことがある。また、ラインだけではなく直接会って話ができたら良いと感じている。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	13					
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	10			1	2	今回が初めての公表。
非常時 等の 対応	14 個人情報に十分注意しているか	13					
	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	7		1	5		一部のマニュアルは作成しているが、保護者への周知はしていなかった。今後、周知するように努めたい。
満足 度	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	5			7		子どもと一緒に避難訓練は行っているが、保護者へは周知不足だと感じた。来年からは周知に努めたい。
	17 子どもは通所を楽しみにしているか	13					
	18 事業所の支援に満足しているか	13					

208 2 3 29

86%

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年1月 20日

事業所名 こぼんはうすくら 札幌元町教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1	8名以上になると、一階のスペースが狭くなるので運動遊びなどが難しいことがある。	人数に応じて、一階と二階に分けるなどして活動のスペースを確保していることもあり、今後もそうしていきたい。
	2 職員の配置数は適切である	6	2		法的には適切な配置をしているが、利用のお子さんの個性により、もう少し多い方がより余裕のある対応ができると感じる。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8			
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	1	個別課題等の記録は、担当者がコメントを入れている。その結果、次の課題を共有してできている。シリーズでプリントを入れるなどして、本人にも覚えていくことが分かるようにしている。	やりたいと思うことはあるが、時間が足りない。まずは、今の流れで安全に運営できるようにしていきたい。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	2		今年の2月からの事業開始なので、今回が初めての公表。話し合いや保護者の皆さんからいただいた意見を参考により事業所にしたい。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	2		同上
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	3		まだ、検討していない。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		何度か研修を実施している。強度行動障害の研修にも職員を参加させている。市が主催している出前講座も問い合わせをした。	問い合わせをして了承もらったが、タイミングが合わず受講できなかった。来年度は、早めに動いて受講したい。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8		必要時には保育園や幼稚園にも訪問して、様子の把握に努めている。	今後も同じように連携させてもらいたい。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1	アセスメントはヴァインランドや田中ビネーなどの標準化されたツールを利用している。ただ、時間が足りず、支援に生かすための仕組みが作り切れていない。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	8		療育リーダーを配置して、中心となりプログラムを立ててもらっている。色々な特技を持つ職員がいて、開設時よりもプログラムが豊かになった。	利用の人数が増えているので、発達年齢に応じ楽しめる活動が組めるように工夫していきたい。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		活動を目的別(SST・言語・運動等)にして固定化しないようにしている。	今後も同じように固定化せずに楽しめるプログラムを提供したい。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	1	平日、休日、長期休みは利用時間が異なるので、必然的にプログラム内容は変わる。	利用する子供の発達年齢や特性に合わせることを目的にしている。今後もそうしていく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8		一日のうちに、個別課題と小集団のプログラム、両方を組み込むようにしている。	子どもの登所時間によって、個別課題に取り組む時間がなかつたりすることが残念なことがある。その場合でも最低限、楽しんで帰ることは提供していきたい。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		朝礼で当日の打ち合わせと、前日の振り返りをしている。当日のリーダーが決められており、リーダーを中心に活動を回している。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7			送迎から帰るとかなり遅い時間になるので(特に冬時間)翌朝にしている。必要な時はラインワークスなどを使って共有している。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		記録は必ずつけている。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7			
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6			家族状況によって、本人支援が中心だったり、家族支援、移行支援が必要だったり違うと感じている。バランスよく組めるようには意識したい。	
20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6				

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7		保護者とはラインを活用して、連絡は取り合っている。学校とは、必要なケースのみ確認をしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	3		該当ケースなし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	2		移行支援のケースがない。今後、そのようなケースがあれば情報共有したい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	3		該当ケースなし。今後、該当ケースが出てきたと気に対応していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2	障がい児地域支援マネージャーの訪問を受け、助言をいただいた。	必要であれば、おがるなどの機関支援も活用していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		6		今のところ予定していない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	3	数年ぶりの対面開催に参加。地域の同業者と情報交換ができた。	職員の状況にもよりますが、できる範囲で参加して行きたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		気軽に連絡を入れてくださる保護者の方は、比較的多いと感じている。	利用人数が増えたことで、家族への配慮が偏ったり漏れることがないように注意したい。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	3	まだ、そこまでの余力はない。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		ラインなどで相談をいただくこともある。職員間で共有し、皆で対応を検討し応じている。	今後は、面談の機会も増やしたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8		5年9月に初めて開催をした。予想より多くの親御さんが参加していただき、「楽しかった」との感想をたくさんいただいた。	年に2〜3回程度開催できるようにして行きたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8		すぐに対応するように努力はしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		会報は2回発行している。	周知が足りていないのか、保護者さんからは、「
	35	個人情報に十分注意している	8			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	1	子どもへの伝達についての配慮はもちろんだが、親御さんの状況によって、伝達の仕方は変えている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		7	今のところ、そこまでの余裕がないので、今後検討していきたい。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	2		災害マニュアルや感染対策マニュアルは準備しているが、保護者への周知はしていなかった。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		避難訓練は年に2回行ったが、アンケートの結果、知らなかった親御さんもいた。周知不足。	来年度からは、事前の周知とともに、行ったときは会報やSNSなどで保護者への周知を図る。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		社会福祉協議会主催の研修などにも参加。	出前講座も利用して、理解を深めていきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	1		現状、身体拘束が必要なお子さんはいなくなりつつある。(一時はいたが、本人が落ち着いたら)今後に向けて、契約時に説明するなどして、ご家族の心情に配慮するなどしながら、書類を作れるようにしたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	3	親御さんとはどのように対応するかを確認している。指示書はもらっていない。	アレルギーの重いお子さんについて、年度の代わりに学校に提出する書類のコピーをいただき保管する。

43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	1		ヒヤリハットはあり、記載もしていたが、新入社員への周知がされていなかった。また、慣れてしまって、記載の頻度が減っている気もする。意識を改めて記入していく。
----	---------------------------	---	---	--	-------------------------------------------------------------------------------